

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	503	科目名	コミュニケーション学事例研究3		サブネーム	地域とコミュニケーション		
共催機関名	科学技術振興機構	レベル	基礎～中級		講義枠	土曜日	講義時間	10:00～, 11:50～, 14:00～, 15:50～
科目概要	環境汚染、事故、災害等のリスクについて、地域社会が知りたい情報と企業側から提供される情報の情報交換のあり方、相互にコミュニケーションする手法、そして公害事例、地震災害事例等を参考に地域社会と企業の係わり方について解説する。特に、神奈川県などにおける事例をもとに、地域社会とのリスクコミュニケーションのあり方について議論する。							

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
環境汚染	1 ケーススタディ 1 (大気汚染)	産業の負の遺産として1960年代の公害があるが、ここでは川崎の大気汚染公害を事例研究として提供し、現在の問題点として置き換えて議論を展開する。	4月23日	204	深澤秀司	神奈川県津久井地区行政センター環境部
	2 ケーススタディ 2 (地球環境)	地球環境への取り組みを紹介し、事例としては平成12年に神奈川県の工場で発生したダイオキシン河川流出事故を取り上げダイオキシンの健康毒性等について議論し、合わせて地域で取り組む地球温暖化対策について神奈川県の事例をもとに議論を展開する。	4月23日	204	加藤 洋	神奈川県農政部環境計画課
	3 ケーススタディ 3 (自動車交通公害)	NOx法が施行され自動車の排ガス規制が実施されてきているが、首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)では自治体が独自に条例を定め、ディーゼル車排ガス規制を実施しなければ環境基準をクリア出来ないのが現状である。ここでは神奈川県が行った事例をもとに議論を展開する。	4月23日	204	深澤秀司	神奈川県津久井地区行政センター環境部
	4 ケーススタディ 4 (企業の環境と安全対策)	京都議定書を批准して以来、企業にとって、環境安全問題は最重要課題となっている。ここでは川崎コンビナートのエチレンセンターでの具体的対応の事例を紹介し、論議を展開する。	4月23日	204	太田 進	新日本石油化学社会環境安全室
地震災害	5 地震概説	我が国は地震発生が顕著であり、産業界においても地震対策は火急の課題となっている。地震発生メカニズムから施設の耐震設計の考え方を概説する。	5月14日	204	杉原英和	神奈川県防災局防災消防課
	6 ケーススタディ 5 (阪神淡路大震災)	平成5年に神戸市を中心に襲った阪神淡路大震災は、被害の大きさもさることながら大都市直下を襲った大地震であり、地震問題を根本から見直すテーマが数多く発生した。耐震設計の視点と都市の地震対策について事例を交え論議する。	5月14日	204	石田和雄	石川島播磨重工(株)エネルギープラント事業本部
	7 ケーススタディ 6 (十勝沖地震とタンク火災)	2003年に発生した十勝沖地震では、長周期地震波の影響で苫小牧市の石油コンビナート施設に大きな被害が出た。地震の長周期地震波に焦点をあて、地震対策について問題点を議論する。	5月14日	204	川端鋭憲	科学技術振興機構社会技術研究システム
	8 ケーススタディ 7 (新潟中越地震他)	2004年新潟中越地震が発生し、大きな被害が発生した。内陸のプレート内部で発生する地震は、震源付近で大きなゆれが発生し、局所的に壊滅的な被害を被るが、内陸直下の地震の問題点を長野県西部地震の事例と比較しつつ議論を展開する。	5月14日	204	杉原英和	神奈川県防災局防災消防課
地域とのコミュニケーション	9 ケーススタディ 8 (社会合意形成の手法 1)	社会との合意形成のトライアルを課題として提供し、問題点について議論する。	5月28日	204	松田光司	科学技術振興機構社会技術研究システム
	10 ケーススタディ 9 (社会合意形成の手法 2)	社会との合意形成のためのクライシスマネジメント、クライシスコミュニケーションのあり方を提示し、議論する。	5月28日	204	川端鋭憲	科学技術振興機構社会技術研究システム
	11 ケーススタディ 10 (安全性評価)	産業廃棄物リサイクル事例を中心として、企業の安全性評価とコミュニケーションについて議論を展開する。	5月28日	204	小林幸文	神奈川県足柄上地域県政総合センター環境部
	12 ケーススタディ 11 (安全性評価演習)	川崎の石油化学工場を例として、安全性評価の結果を明示し議論をする。	5月28日	204	太田 進	新日本石油化学(株)社会環境安全室
科学技術の光と影	13 ケーススタディ 12 (重大化学事故)	昭和48年以降の高度成長期に続発した石油コンビナート事故と社会的対応の問題点について議論する。	6月11日	102	堀郁夫	科学技術振興機構社会技術研究システム
	14 ケーススタディ 13 (市民との対話事例)	化学物質の排出移動登録(P.R.T.R)制度施行実績とレスポンスブルケア活動の状況について、地域対話事例をNPOの立場から解説し、議論を展開する。	6月11日	102	小山富士雄	ダイヤリサーチマーケット
	15 サイエンスショップ概論	企業、地方自治体、住民における様々なコミュニケーション中で、その対話結果についての疑問や不満について受けとめる中立的な機関としての「サイエンスショップ」構想について紹介し、そのあり方論について議論する。	6月11日	102	三宅 苞	科学技術振興機構社会技術研究システム